

日本人学校での平和授業

ユースメンバーは、医学、経済、教育など、一人一人の専門分野における知識や経験を活かした活動を行いました。

教育学部のメンバーを中心に行ったのが、ニュージャージー州にある日本人学校「ニューヨーク育英学園」における平和教育の実践です。対象は小学5、6年生の18名。85分の授業では、「平和とは何か」「平和な世界を導くために何ができるか」をテーマに、どうすれば自分が思い描く平和を実現することができるのか、子どもたち一人一人が考える機会となるよう工夫を重ねました。



▲日本人学校での授業風景

ドイツ大学生との意見交換会

ユースメンバーは、ドイツのダルムシュタット工科大学及びハンブルグ大学から参加した約30名の大学生と意見交換のセッションを行いました。両大学は毎年、「核兵器禁止条約に関する交渉シミュレーション」プログラムのもと、大学生をNPT会議に派遣しています。ユースメンバーと独大生メンバーは事前に連絡を取り合い、MLを通じてテーマ（「核の傘」「原発」）を決定し、それぞれが自国の政策についてのプレゼンテーションを準備しました。共通項も多い日本とドイツ。当日は少人数のグループにわかれての白熱した議論となりました。

ディスカッションの最後に参加者全体で出た意見を共有した際、「私達は平和という同じゴールを目指している」とドイツの学生が述べていたのがとても印象的でした。



▲ドイツ大学生とのディスカッションの様子



「平和とは何か」の問いに対し、子どもたちからは「共存」という言葉が出ました。人種もさまざまなアメリカならではの答えでしょうか。子どもたちの豊かな発想に驚かされることばかりでした。



3 帰国後

米大学生との意見交換会

5月15日、スタディツアーの一環で長崎を訪問していた米インディアナポリス大学の「広島・長崎講座」受講生の一行と、長崎原爆資料館で意見交換会を行いました。日米の若者における核兵器に対する認識や平和教育の違いなどをテーマに議論を交わしました。

活動報告会

Time to Change the World!

～「ナガサキ・ユース代表団」ニューヨークでの挑戦～

5月20日には、活動のまとめとなる報告会を長崎大学文教キャンパス内で開催しました。

準備にあたっては、活動を通じて学び、考えたことを、どうすれば他の若者にうまく伝えることができるのか、メンバーで議論を重ねました。核問題が遠い、誰かの問題ではなく、自分たちがかわるべき問題であることを伝えたい——。議論の末、報告会を2部構成とし、後半にメンバーと参加者が対話する「茶話会」形式を取り入れました。



そして、未来へ

ナガサキ・ユース代表団2期生としての公式活動が終了した後も、活動を通して得た知識・経験・人脈を活かし、ユースメンバーは各方面で活躍しています。小中学生などさらに若い世代に「若者の取り組みの重要性」を伝える機会も増えています。

NPT再検討会議の年であり、広島・長崎の被爆70年の節目となる2015年を視野に入れた新しい動きも始まりました。ユースメンバー有志を含めた若者は、2015年夏の長崎で、国内外の若者ととともに核問題を議論する会議を開こうと企画を進めています。そのイベントとして、69回目の長崎原爆忌の翌8月10日には、大学生が各国の外交官になりきり、核軍縮をテーマに交渉シミュレーションを行う「模擬国連」を行いました。「Peace Bridge to 2015 ～核兵器の今に迫る～」と題したこのイベントには、ドイツのダルムシュタット工科大学の学生など、ユースメンバーがニューヨークで出会った各地の若者が参加し、2015年に向けた新たな連携を誓い合いました。

今年の長崎平和宣言には次のような一文が盛り込まれました。

「長崎では、若い世代が、核兵器について自分たちで考え、議論し、新しい活動を始めています。大学生たちは海外にネットワークを広げ始めました。高校生たちが国連に届けた核兵器廃絶を求める署名の数は、すでに100万人を超えました。」

まだまだ多くの大学生にとって「核兵器」というテーマは「遠い、難しい、自分と関係ない」問題と感じられるかもしれません。そんな中でも、「ナガサキ・ユース代表団」の存在をきっかけに、この問題に関心を持つ長崎の若者の数は少しずつ、でも着実に増えています。